

蕨・戸田
地区

保護司会だより



第7号



機まつりでにぎわう 蕨駅前商店街

蕨・戸田地区保護司会の皆様には、日頃から更生保護の活動に多大な御尽力を賜り、誠にありがとうございます。ごさいます。

さて、我が国の更生保護制度は、令和元年に施行七十周年を迎え、十一月十九日には、戸田市文化会館において、これを記念する埼玉県更生保護大会が盛大に開催されました。明治以来の民間篤志家の善意により築かれた伝統を礎として、昭和二十四年に発足した更生保護制度は、社会の大きな変化の中、様々な課題に直面しながらも、保護司を始めとする更生保護関係者の皆様の御尽力に支えられ発展してきました。この十年は、安全で安心な社会づくりに向け再犯の防止が重要な課題となる中、犯罪をした人たちが孤立することなく円滑に社会復帰できるよう、更生保護においても、関係機関・団体の協力を得て、就労支援、



広がり、
つながる更生保護

さいたま保護観察所長

岸 規子

帰住先の調整、薬物依存からの回復支援や対象者の特性等に応じた指導の充実などに取り組んできました。平成二十八年十二月には「再犯の

防止等の推進に関する法律」が施行され、国、地方公共団体、民間団体がそれぞれの役割に応じてその力を発揮し、連携して再犯防止に取り組む必要性が改めて示されました。施行から三年が経過し、国の再犯防止推進計画の策定・推進に加え、埼玉県でも新たな連携の枠組による社会復帰支援の取組みも始まっています。今後、同法の趣旨、理念を更に地域に生かし、多様な分野の機関・団体との連携協力を一層確かなものとして、支援のネットワークを広げ、根付かせていきたいと考えています。新しい時代の中で、更生保護が着実な歩みを重ねていきますよう、皆様の御理解、御協力を心からお願ひ申し上げます。

犯罪の無い明るいまちづくりに向けて



蕨市長

頼高 英雄

蕨・戸田地区保護司会の皆様には、日頃より更生保護活動や犯罪防止活動、更には青少年の健全育成など、安全安心のまちづくりに多大なるご尽力をいただき、市長として心からの敬意と感謝を申し上げます。

蕨市では、防犯対策として、市内全防犯灯のLED化や街なか防犯カメラなどの取り組みを進める中で平成15年に3046件あった市内の犯罪件数が平成30年は約4分の1となる765件にまで減少し、18年以上続いてきた犯罪発生率県内ワースト3から脱却することが出来ました。全国的に見て再犯者の人数は減少傾向にあります。その割合が犯罪全体の半数近くを占める状況にあるだけに、犯罪や非行をした人の地域における立ち直り支援や再犯防止に向けた活動は、ますます重要となっております。

います。蕨市におきましても、平成28年12月に施行された「再犯の防止等の推進に関する法律」の趣旨を踏まえ、関係機関との連携を深めながら安全安心のまちづくりに全力をあげているところですが、貴会の皆様におかれましても、引き続き、一層のお力添えを賜りますようお願いいたします。

結びに、更生保護活動の更なる充実と貴会の皆様のご健勝にてのご活躍をご祈念申し上げます。



第5回 蕨市民音楽祭より

地域とともにある学校



戸田市教育委員会教育長

戸ヶ崎 勤

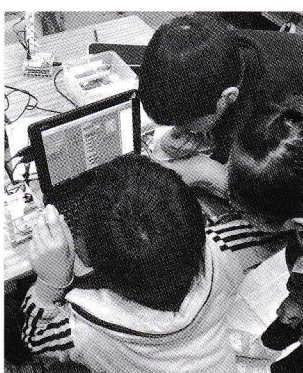
蕨・戸田地区保護司会の皆様には、日頃より罪を犯した人や非行のある少年たちの円滑な社会復帰を助けるとともに、犯罪や非行の予防を図り、個人や公共の福祉に多大なる御尽力をいただき、深甚なる敬意を表するとともに、心より感謝申し上げます。

さて、本市ではいち早く全小・中学校に学校運営協議会制度を導入しておりますが、予測困難な時代を生きる子供たちの健やかな成長のため、学校と地域住民等が力を合わせ、「地域とともにある学校」への転換の推進を図る目的があります。近年、青少年の犯罪は減少傾向にあり、平成30年には全国及び埼玉県で刑法犯少年の検挙件数は戦後最少を更新しています。しかしながら、著しい社会の変化に伴い、青少年の

犯罪・非行傾向にも変化が表れ、子供たちが日々の生活の中で犯罪に巻き込まれる危険性は高まっています。

子供たちの健やかな成長を願うことは、いつの時代においても不易であり、地域と学校がより一層連携し、更生保護への理解を深め、地域ぐるみで見守りへの意識を高めることが重要だと考えております。

今後とも一層のお力添えを賜りますようお願いするとともに、貴会の御発展とますますの御活躍を祈念申し上げます。



プログラミングに取り組む戸田の子供たち

埼玉における更生保護七十年

和を求めて一丸となつて

蕨・戸田地区保護司会活動状況

一、機能別部会制の導入

●平成11年4月総務部と事業部の2部門を設け、会員はいずれかに所属して活動するとした。

●平成25年10月広報発行部会を立ち上げ、毎年1回「蕨・戸田地区保護司会だより」を発行している。

●平成27年4月戸田市福祉保健センター内に更生保護サポートセンターを開所し、運営委員会を設置した。

二、保護司研修(自主研修)の実施

各支部に1名の研修担当を置き、地域別定例研修、自主研修の企画及び運営に当たる。

三、社会を明るくする運動の取組

蕨支部は「社明運動推進大会」を開催し、式典、講演会、社明DVDの上映等を行っている。

一方戸田支部では市庁舎と市内3駅に社明の横断幕を掲げ、駅頭キャンペーンを実施している。

四、更女会、BBS会、協力雇用主等との連携活動

●更女会とは社明運動等への参加を通して相互に連携をはかっている。

●蕨BBS会とは担当保護司が定例研修に参加する等の協力をしている。

●協力雇用主との連携については今後の重点課題となっている。

五、地方公共団体や関係機関との連携活動

●行政との連携

補助金の交付をはじめとする全面的な協力により、活動に専念することができている。

●中学校との連携

蕨支部は市内4校と年2回、戸田支部は市内6校と年1回情報交換会を実施している。

●民生委員・児童委員協議会との連携

戸田支部では民生委員を委嘱されている保護司が6名おり、相互に情報共有が図られている。

●南部保健所との連携

薬物乱用防止指導員は、街頭キャンペーンや講演活動等を通し啓発活動を行っている。

六、サポートセンターの活動状況

対象者との面談をはじめとする保

護司の処遇活動を支援する等、地域における更生保護活動の拠点となっている。

「健康福祉の杜まつり」に参加し、更生保護活動への理解と協力を広く呼びかけている。

七、保護司適任者の確保に対する取組

保護司のなり手不足が全国的な問題となる中、当地区においては、保護司活動に対する地域の理解を深め、幅広い人材から保護司の候補者を確保することなどを目的に、平成21年11月、蕨・戸田地区保護司候補者検討協議会を設置した。

原則として保護司に欠員が生じる前に協議会を開催し、新任保護司候補者の検討を行い、保護観察所に推薦している。

全国的な傾向として、保護司の高齢化の急速な進行が挙げられているが、当地区においても、この先1、2年の間に5人の保護司が定年で任期満了を迎えるため、保護司の補充は喫緊の課題となっている。

八、特記事項

当地区では、平成8年1月より、保護観察所の依頼を受けて、少年対

象者の社会参加活動への協力を行っている。この社会貢献活動は、保護観察対象の少年たちが、社会の役に立つ体験を通じて、人の役に立てるといふ感情や社会ルールを守る意識を育むことを目的としている。

この功績が認められ、平成25年9月の全国更生保護大会において、当地区は埼玉県内の保護司会として初めて、瀬戸山賞を受賞した。

地区を構成する行政においても、再犯防止に関する独自の取組が行われている。戸田市では、再犯の防止等の推進に関する法律第14条「就業の機会の確保等」の具体化策として、戸田市入札参加者遵守事項に「保護観察所への協力雇用主の登録及び保護観察対象者等の雇用に努めること。」を追記し、入札参加者に電子入札システムで告知している。

九、地区保護司会としての将来の展望、課題等

犯罪や非行をした者の中には、経済的困窮や病氣、障害、厳しい生育環境、不十分な学歴など、様々な生きづらさを抱え、立ち直りに多くの困難を抱えるものが少なくない。再犯を防止するためには、まずは、犯



蕨・戸田地区保護司会

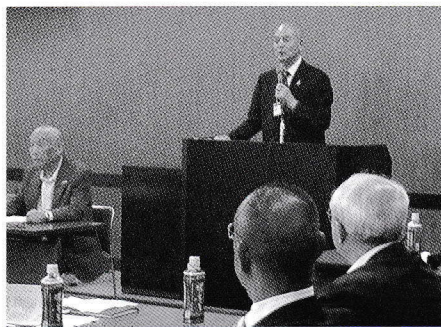
(莊智子・泉山高子)

罪をした者が罪を犯した責任を自覚し、犯罪の被害者となった人の心情などを理解して、自ら社会復帰を果たすよう努力を促していくことが必要である。
更生保護女性会、BBS会、民生委員・児童委員協議会、協力雇用主、行政など各団体との連携を強化して対象者の円滑な社会復帰を支援する一方、少子高齢化の進展とともに外国人の増加により地域社会が変貌していく中、更生保護に対する地域社会からの期待に応えられるよう保護司自身の研鑽と保護会活動の発展に努め、今後一層、犯罪のない明るい社会を築いていきたいと考えている。

令和元年度 蕨・戸田地区保護司会役員

役職名	氏名
1 会長	細田 昌宏
2 副会長	池上 東二
3 副会長	金子 篤徳
4 総務部長	長瀬 文雄
5 事業部長	鈴木 幸義
6 総務副部長	斎藤 典子
7 総務副部長	奥住美千子
8 事業副部長	泉山 高子
9 事業副部長	島田 幸昌
10 理事(事業)	結城 辰雄

役職名	氏名
11 理事(事業)	比企 孝司
12 理事(事業)	榎本 忠
13 理事(総務)	眞下 賢
14 理事(総務)	駒崎 恭子
15 理事(総務)	川島 善徳
16 理事(総務)	寺尾 博
17 監事	貫井 和子
18 監事	武藤 和徳
19 顧問	三輪 一榮
20 顧問	山内 俊和



埼玉県保護司会連合会 遠藤隆雄会長



和やかな中にも真剣に協議する参加者

埼玉県保護司会連合会第1ブロック連絡協議会

令和元年度の埼玉県保護司会連合会第1ブロック連絡協議会が9月30日(月)戸田市文化会館で開催されました。県連絡協議会は、地域別で県下4ブロックに分けられ、蕨・戸田等の県南部と草加等県東部が第1ブロックで、内訳はさいたま浦和、蕨・戸田、川口、草加、越谷、春日部の各保護司会です。

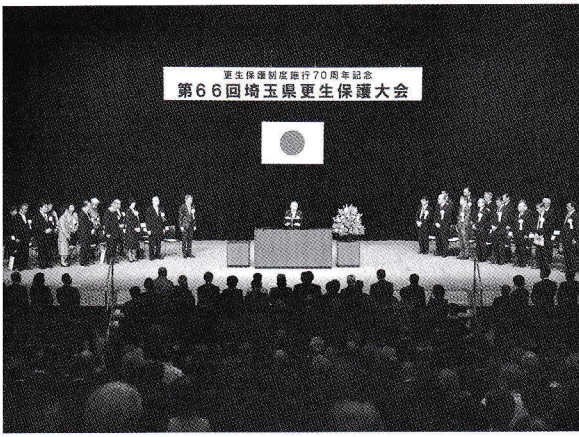
当日の参加者はさいたま保護観察所から所長と企画調整課長、県連合会正副会長、第1ブロックの役員で計48名でした。内容は2つのテーマ①保護司適任者の確保と②地区保護司会の運営について4グループに分かれての協議でした。当地区からは細田会長はじめ副部

長以上の9人が参加し、司会進行は当地区の長瀬総務部長、第1グループの発表者は池上副会長でした。それぞれの地区から選出され4グループの参加者がテーマに基づき各地の事情を話しながら協議を進め、各グループからの発表者がテーマの内容に基づき1人4〜5分ずつ協議成果を発表しました。その後、発表内容についての講評が観察所長及び企画調整課長からありました。

協議会全体を通して思ったのは、今後10年間で現行制度とすると保護司の数が半分になってしまうので、その対策が喫緊の問題になるということです。長時間にも関わらず保護司の皆さんが持つ穏やかな雰囲気の中にも、真剣に話し合いテーマをまとめる姿になるほどと感心いたしました。

(大山正治)

第66回 埼玉県更生保護大会



令和元年11月19日、戸田市文化会館ホールにて毎年恒例の埼玉県更生保護関係者約1200余名の参加と来賓として、埼玉県知事、大野元裕氏をはじめ、他21名の関係各位を迎え盛大に開催されました。式典に先だち、大阪大学大学院人間科学科教授、藤岡淳子氏による「非行・犯罪行動からの回復に資する対話の可能性」と題する講演が行われました。非行、犯罪行動からの回復には対話を通して応答し、共に考えることの重要性を説いた講演でした。その後、埼玉県更生保護女性連盟

会長の本橋恵子氏による開式の辞で式典が始まり、表彰式では顕彰が行われ、当保護司会からは、法務大臣表彰1名をはじめ計16名の方々が受賞の栄に浴されました。
(春山嘉正)

令和元年 秋 瑞宝双光章
鈴木 幸義 (蕨)



鈴木 幸義

法務大臣表彰

奥住美千子 (戸田)
全国保護司連盟理事長表彰

比企 孝司 (蕨)
武藤 和徳 (戸田)

関東地方更生保護委員会委員長表彰
瀧澤 林三 (蕨)

中崎 敏子 (戸田)
春山 嘉正 (戸田)
平井 恵子 (蕨)

関東地方保護司連盟会長表彰
石井 剛 (戸田)

小槻 保美 (蕨)
山田 憲兒 (戸田)

さいたま保護観察所長表彰
大山 正治 (戸田)

埼玉県保護司会連合会長表彰

大森 洋子 (戸田)
熊木 幸夫 (戸田)
中村 信成 (戸田)
福島とよ乃 (戸田)
福田 政文 (戸田)

退任にあたり

本橋 恵子 (戸田)

昭和62年6月に保護司の委嘱を受け、以来32年間…、瞬く間であったように感じます。

価値観を左右させられる大変意義深い歳月でした。保護司を通して出会えた皆様から感謝申し上げます。

秋元 豊子 (戸田)

保護観察所の方々など関係各位の長きにわたるご指導ご鞭撻のおかげで藍綬褒章までいただき、保護司活動を全うさせていただきました。

今後とも元保護司として、変わらぬご厚情を賜りますようお願いいたします。



結城 辰雄 (蕨)

保護司を拝命して22年、77歳に成っても気力、体力はまだまだ自信があります。

私の座右の銘は「罪を憎んで人を憎まず」です。

保護司の皆様、事務局の皆様、大変お世話になり有難うございました。菊香る陛下の笑みの優しくて行く秋や二十二年を妻に謝し

新任にあたり

大森 康代 (戸田)

平成から令和へと時代の変わった5月に保護司に委嘱されましたこと、身の引き締まる思いでございます。「この保護司だから更生できた」と言ってもらえるよう微力ながら精一杯努めたいと思います。ご指導いただきませうよろしく願っています。

宮澤 正 (戸田)

研修や先輩方からのお話を通じ、保護司とはという疑問が少しながらも掴めて参りました。市内に地域育成の会が出来る基となった、中学生時代の貴重な体験と、現在までの経験を頼りに、経験を重ねて参ります。

サポートセンターだより

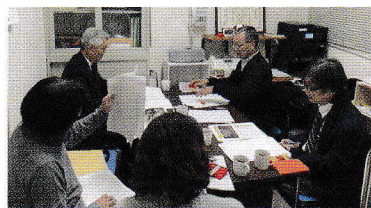
サポートセンターも5年目を迎え、順調に活動しています。保護司同士の交流や面接の場としても使用されています。

サポートセンターのある戸田市福祉保健センターのまつりにも毎年積極的に参加し、保護司会の活動をPRしています。

(小槻保美)



戸田市健康福祉の杜まつり 保護司会ブース



編集会議

第2回昭島矯正展

2019年9月21～22

社会を明るくする運動の一環として行われる矯正展が、9月21、22日の2日間昭島市の国際法務総合センター内にある矯正研修所、東日本成人矯正医療センターで開催された。

ここは立川基地跡の広大な土地にあり、昭和記念公園に隣接する静かな場所であるが、この日ばかりはいつもとは違うようだ。

地域の小、中、高生による吹奏楽や大学生や芸能人によるパフォーマンス、また飲食店も多く参加協力していた。地元の保護司会はブースで周知活動、更な会は手作り品などのバザー、と地域を巻き込んだ盛大な

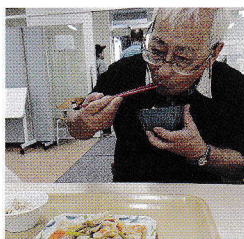
イベントで、特に若い家族連れでにぎわっていた。

体育館では、刑務作業製品が積み上げられ、各地の刑務所から来ている刑務官と会話しながら買い物を楽しんだ。

医療刑務所見学、護送バス体験、刑務所給食体験などを通して一般市民にこの施設の理解を求め、刑務職の募集に力

を入れていたのが印象に残った。

(細井玲子)



刑務所給食体験

令和2年度 年間事業計画 (案)

2月	1月	12月	11月	8月	7月	5月	4月
役員会	広報紙発行	年末保護強化研修	第3期地域別定例研修	第2期地域別定例研修	学校との連携	県外研修	総会
	保護司候補者検討協議会	第3期地域別定例研修	第67回埼玉県更生保護大会	役員会	保護司候補者検討協議会	サポーターセンター運営 (4月～3月)	令和元年度監査
			学校との連携		社会を明るくする運動		役員会



CAPICブランド (刑務所作業製品) の販売

編集後記

埼玉県における保護司が10年先には、約半分51・2%が75歳の定年退任を迎えるそうだ。蕨・戸田地区においても55・2%になるらしい。国全体としても保護司制度維持のためには保護司の安定的確保は喫緊の問題である。

高齢社会の現状を鑑みると、雇用の確保や年金問題対策に定年退職年齢の延長が考えられているが、保護司も現在の75歳定年退任を延長するのも一案なのかなと思う。県内某地区では80歳に延長で運用していると聞いている。

2019年度版の高齢社会白書によると、日本の総人口の65歳以上の割合(高齢化率)は28・0%、75歳以上の割合は14・2%。2065年には65歳以上は約2・6人に1人になるとい

編集委員長 大山西治

編集委員

- 泉山 高子
- 大山 正治
- 奥住美千子
- 小槻 保美
- 庄 智子
- 春山 嘉正
- 細井 玲子
- 山内 俊和 (50首順)